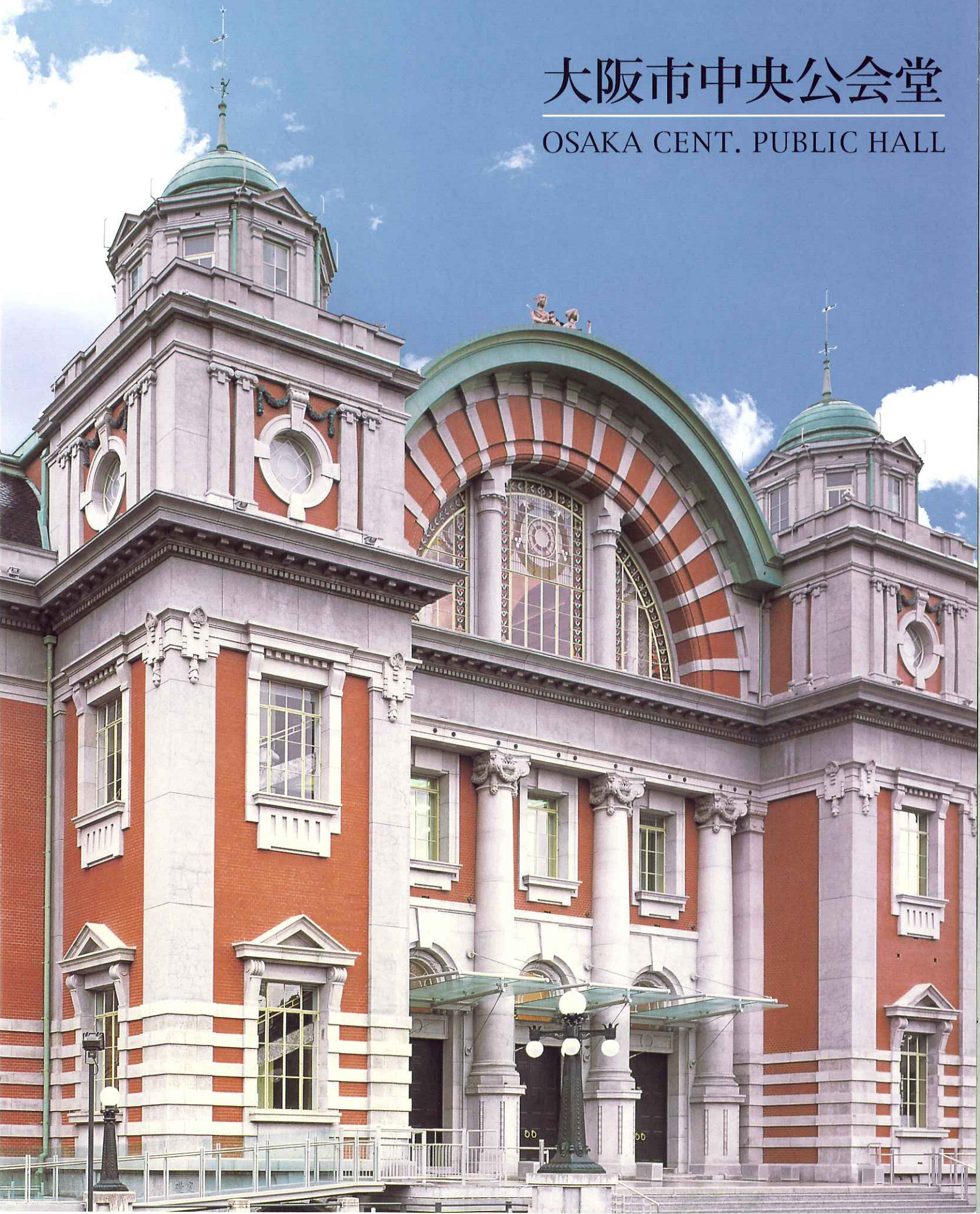


大阪市中央公会堂

OSAKA CENT. PUBLIC HALL



再生—甦った大阪のシンボル

北に堂島川、南に土佐堀川が流れる中之島の地に建つ大阪市中央公会堂。
水の蒼と木々の緑に映えるネオルネッサンス様式の美しい景観は、いつの時代も変わらず、
多くの人々に愛され親しまれています。



大阪市中央公会堂は、ひとりの大阪市民、岩本栄之助氏の寄付をもとに大正2年に着工し、大正7年に竣工しました。以来、80年余りにわたって国際的な一流アーティストによるオペラやコンサートの他、各界著名人の講演会も数多く開催されるなど、大阪の文化・芸術の発展に深く関わってきました。時代の流れとともに、その役割も様変わりしましたが、現在もなお、公会堂の壮麗な雰囲気を生かした様々な利用がなされており、市民の活動の拠点となっています。平成11年3月、たび重なる改修などにより創建時の意匠が損なわれ、老朽化が進んだことから保存・再生工事に着手し、約4年の歳月を経て、平成14年9月に完成しました。工事は、歴史的建築物としての保存と、創建時への復元改修に加え、古い建築物に高い耐震性能を与え甦らせる「免震レトロフィット」や、時代のニーズに応え次世代まで活用できるよう、スロープやエレベーターを新設するなど大掛かりなものとなりました。こうして、美しく甦った大阪市中央公会堂は中之島の景観に欠かせない美しい外観と内部意匠が、歴史的建築物として極めて重要であるとの高い評価を受け、平成14年12月、公会堂建築物として西日本で初めて、国の重要文化財に指定されました。



創建時の正面外観



創建当初の大集会室



創建当初の特別室

中央公会堂の歴史(沿革)

1909(明治42年)

岩本栄之助氏、渡米実業団の一員としてアメリカ視察旅行に参加。実業家が私財を公共事業に出捐していることに感銘を受ける。

1911(明治44年)

岩本栄之助氏、公会堂建設資金百万円(当時)を大阪市に寄付。同年、大阪市の(財)中央公会堂建設事務所を開設。

1912(大正元年)

「懸賞金付き設計競技」を実施。早稲田大学教授・岡田信一郎氏の提案が一等に決定。

1913(大正2年)

岡田氏の案を基に、東京駅の設計者 辰野金吾氏と片岡安氏が実施設計。同年、工事に着手。

1918(大正7年)

10月竣工。11月、開業。

1919(大正8年)

ロシア歌劇団「アイダ」を公演。

1922(大正11年)

声楽家、三浦環氏「お蝶夫人」を公演。

1923(大正12年)

イタリア歌劇団「椿姫」を公演。

1943(昭和18年)

第二次世界大戦中の金属供出により、エレベーター・階段手摺・シンボル像が撤去される。

1945(昭和20年)

大阪大空襲。被災者収容のため、公会堂の本来業務停止。

1946～1949(昭和21年～24年)

戦後、政党や労組を中心に多くの集会や講演会が開催される一方、ジャズや流行歌がもてはやされ公会堂は連日賑わった。

1955(昭和30年)

ヘレン・ケラー女史の講演会開催。

1962(昭和37年)

ガガーリン大佐の講演会開催。

1968(昭和43年)

公会堂50周年を迎える。

1978(昭和53年)

60周年を迎えたこの頃、建物の保存について、大阪市の調査研究のため検討委員会を組織。

1988(昭和63年)

市長、公会堂の永久保存と活用について表明。

1990(平成2年)

公会堂の将来構想を検討するため、大阪市の委員会を設置。

1996(平成8年)

保存・再生の基本設計がまとまる。

1997(平成9年)

ゴルバチョフ氏の講演会開催。

1999(平成11年)

3月工事に着手。

2002(平成14年)

9月完成。11月より使用を再開する。

大正浪漫の趣が輝く

熱気に包まれた記憶が甦る集会室。特別室は、幻想的で壮大な静寂の美空間。内部に施された質の高い装飾や絵画、彫刻の数々は、地道な調査と匠たちの熟練の技により、修復・再生されました。



特別室 天井画「天地開闢」

大アーチを生かした半円形に反った天井の形を利用し、日本書紀の中から商工都市大阪にふさわしい天地開闢を選び、伊邪那岐・伊邪那美の両神が国造りのため天の瓊矛を授かる劇的な瞬間を描いている。また櫛の形をした小壁に描かれているのは、なにわに都を定めたといわれる仁徳天皇である。特別室の絵画は、当時を代表する洋画家 松岡壽が描いたものである。



特別室 北側の壁画「商神素盞鳴尊」

中央が素盞鳴尊で、自分の頸鬚と頬髯から船を作り、金銀・土器などを輸入したことから「商いの神様」と伝えられている。



特別室 ステンドグラス

祝い事の象徴である鳳凰と、大阪市の市章「湾標（みおつくし）」をデザイン化したもの。随所に配置された凸レンズは差し込む日差しを拡散し、絵画を保護している。



中集会室

調和のとれたアーチは桧材を加工したもので、今日では非常に貴重である。また、シャンデリアは創建時の物をそのまま使用している。



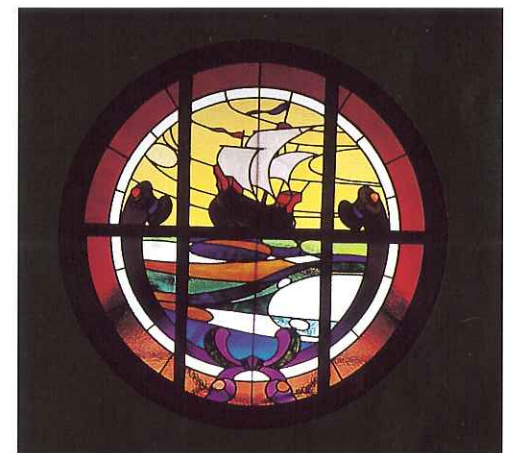
小集会室

木彫の室内、天井や壁を飾る木のしつらい、寄せ木張りの床など贅沢に木を使用している。17面の壁の刺繍飾りは、桐をモチーフにしたもの。



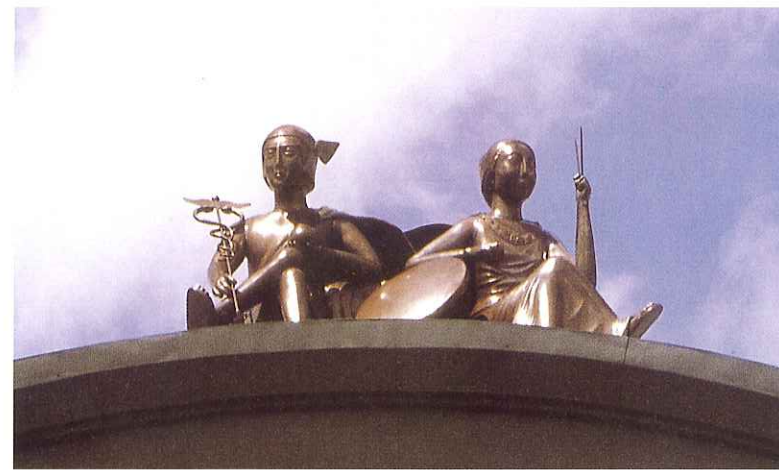
大集会室 正面舞台上の舞楽面「蘭陵王」

古代中国、北齊の王長恭はあまりに美しく、戦士たちがその美貌に見惚れ戦おうとしないため、恐ろしい形相の面をつけて叱責し、戦を勝利に導いたという故事に因んだ舞楽「蘭陵王」の巨大な面。



中集会室 天井丸窓のステンドグラス

風をはらんで疾走する帆船は、海をテーマとした連作のひとつ。



正面アーチ型屋根のシンボル像「ミネルバとメルキュール」

1943年（昭和18）戦時の金属供出で撤去された公会堂のシンボル像を60年ぶりに復元。ローマ神話に登場する学問の神「ミネルバ」（右）と商の神「メルキュール」（左）。



階段手摺の装飾

全ての階段手摺に施された鉄製の飾りは、手づくりによるもの。創建時の質感、色合いもそのままに、美しく復元された。

歴史的建築物を地震から守る

免震レトロフィット

文化的に価値の高い歴史的建築物を免震構造にすることにより、必要な耐震性能を持たせながらも、建物の外観や内部の意匠の改変を最小限に抑えることができる耐震改修の方法です。

免震構造とは

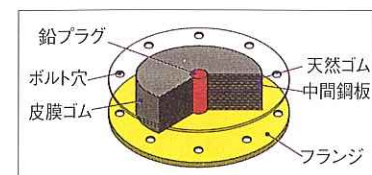
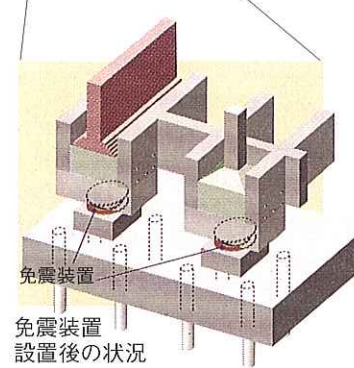
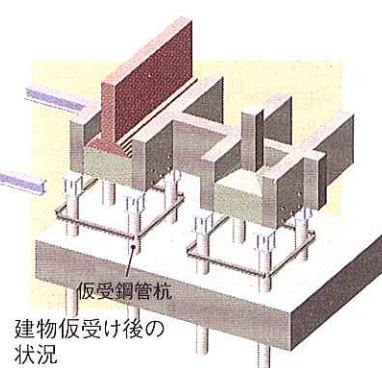
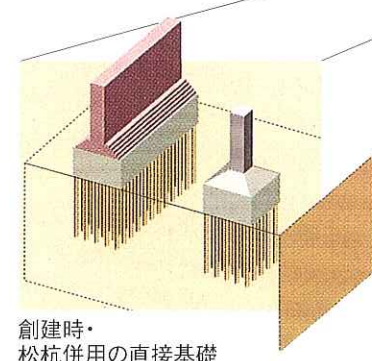
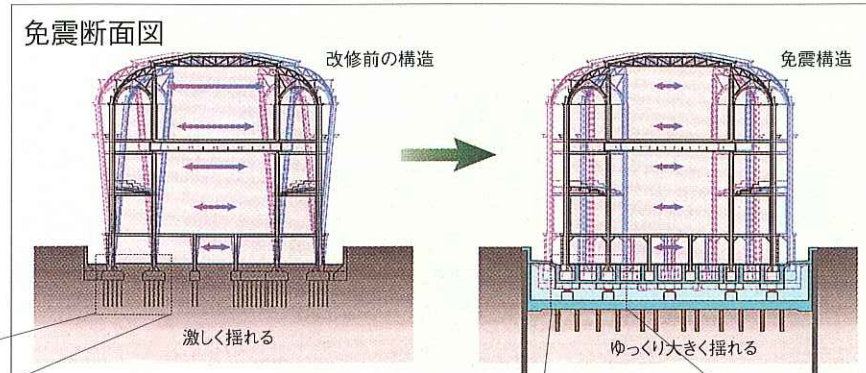
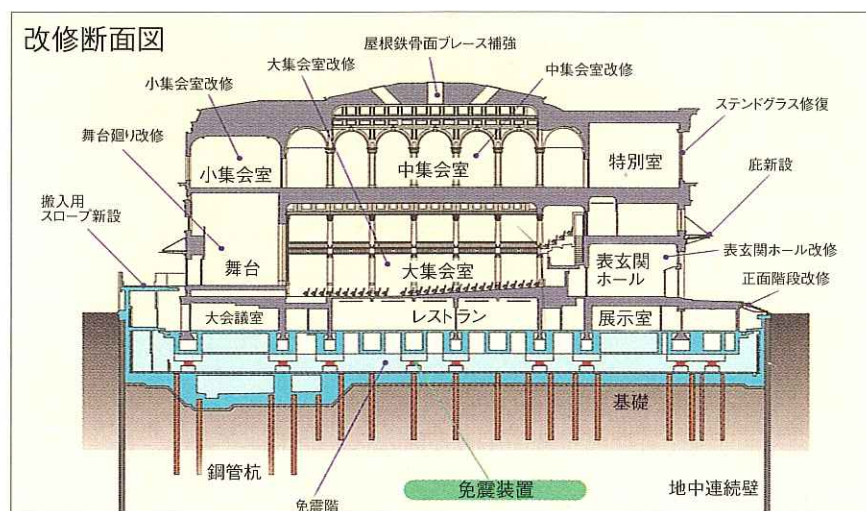
免震構造とは、建物の基礎と上部建物の間に免震装置を配置した免震層を設けることによって、上部建物に伝わる地震力を大幅に低減させ、耐震性能を高めた構造のことです。

基礎について

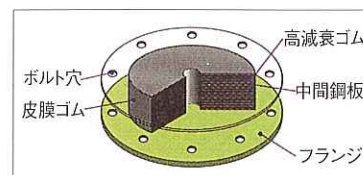
中央公会堂は、長さ約3.6m、3,935本の松杭を併用して地盤に直接支持された建物でした。今回の免震レトロフィットでは、鋼管杭を建物下で圧入し、建物全体を仮受けした後、免震層を既存基礎の下に設けました。なお、仮受けした鋼管杭は、残しておくことにより大地震時に効果を発揮します。

免震装置

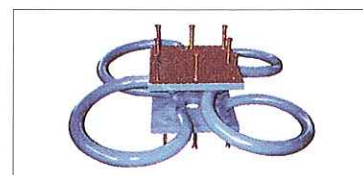
免震装置は積層ゴムとダンパーにより構成されます。積層ゴムは建物の重量を支える力を十分に保ちながら水平方向にはゆっくり変位し、上部建物へ伝わる地震力を大幅に低減させる働きをします。また、ダンパーは揺れを小さくし、減衰させる働きをします。



鉛プラグ入り積層ゴムアイソレーター
(1000φ×6台)・(900φ×40台)
天然ゴムと銅板を積層したアイソレーターの中心部に鉛プラグを挿入したタイプ。鉛プラグが減衰機能を受けもつ。



高減衰積層ゴムアイソレーター
(800φ×16台)
ゴムに特殊配合を施し、ゴム自身に減衰機能をもたせたアイソレーター。



鋼棒ダンパー
(90φ・R365×20台)
鋼棒の塑性変形により大地震のエネルギーを吸収し、揺れを減衰させるダンパー。

創建時の姿 いま ふたたび

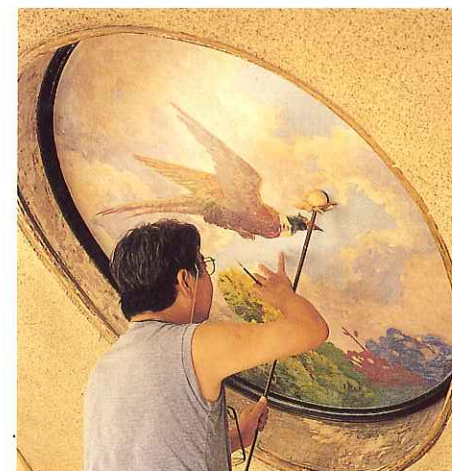
大阪のシンボル中央公会堂は、膨大な手間と時間を費やし、創建当時の美しい姿に復元・再生されました。



特別室 天井画の修復



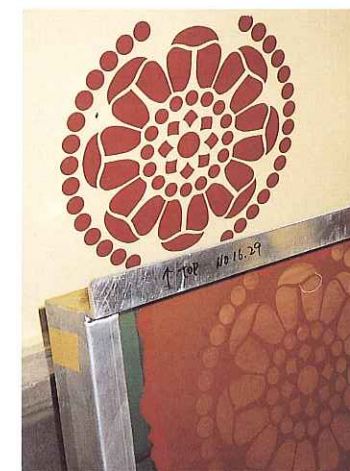
特別室 天井画の修復



中集会室 鳥の絵画(フレスコ画)の修復



特別室 刺繍画の復元



特別室 レリーフの復元



階段手摺の装飾の復元

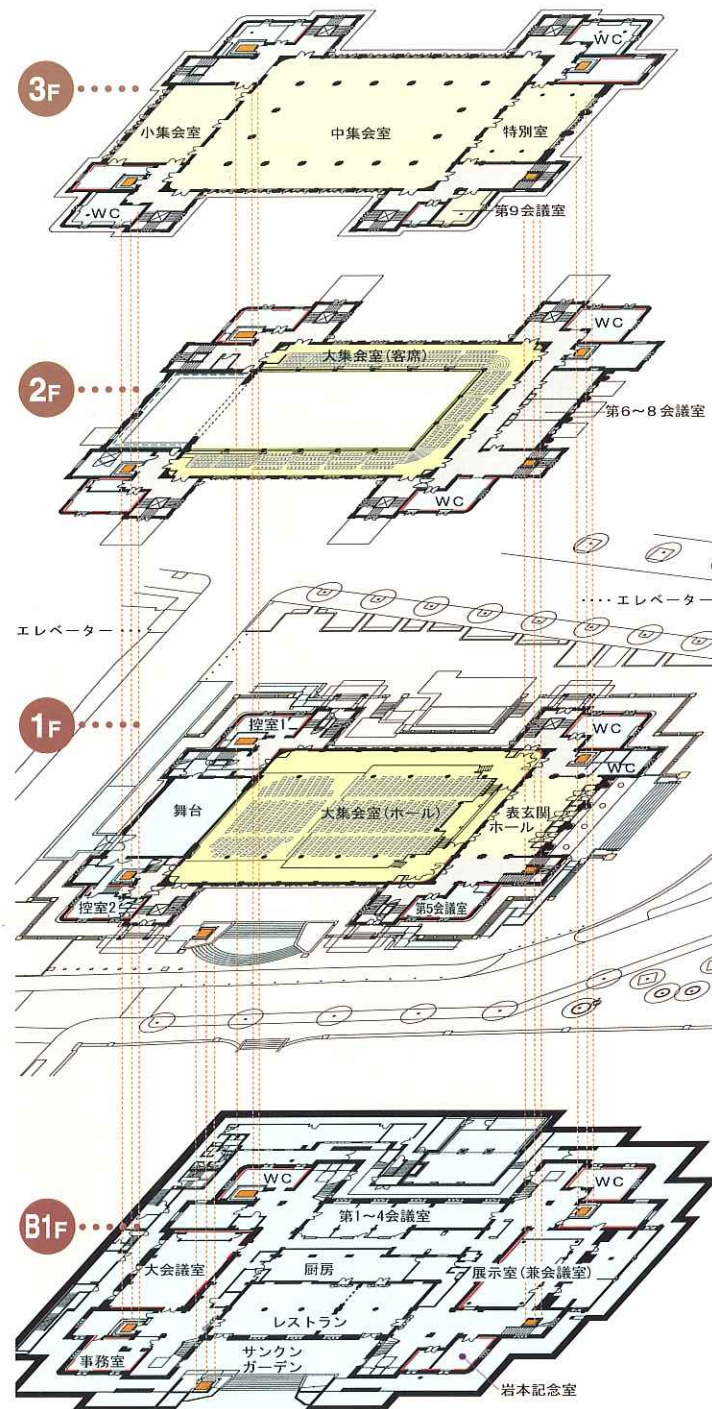


特別室 ステンドグラスの修復



土中より見つかった煙道の一部(地下1階に展示)

■フロアガイド



〈施設の概要〉

所在地: 大阪市北区中之島1-1-27 敷地面積: 5,641.81㎡ (約1,707坪) 建築面積: 2,330.35㎡ (約705坪) 延床面積: 9,886.56㎡ (約2,991坪)
 構造: 鉄骨レンガ造・鉄筋コンクリート造・基礎免震 (免震装置: 鉛プラグ入積層ゴムアイソレーター、高減衰積層ゴムアイソレーター、銅棒ダンパー) 地上3階 地下2階建



大阪市中央公会堂

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-27
 TEL 06-6208-2002 FAX 06-6208-2003



OSAKA

あたがいの 人権守って 明るい社会



古紙配合率100%再生紙を使用しています

2003.10.